

観光による地域存続のための基盤づくり

龍谷大学政策学部今里ゼミナール

○野口直樹 青木滉人 井上祐基 伊井智美 大垣梨夏子 片山幸大 木村史門
清水菜生 田所直樹 辻井心 寺田薫奈 永田屋一澄 西野広大 村井勇介 林大貴
(龍谷大学政策学部政策学科)

キーワード:観光 地域内経済循環 地域の存続

1. 問題提起

日本では8年連続で人口減少が続いており、特に地方での過疎化は深刻な問題である。現在、日本に存在する1800もの市区町村の半数が2040年を目途に存続が難しくなるという予測がある。これは集落に住む人々の暮らしが困難になるだけでなく、景観維持や伝統文化の継承、獣害範囲の拡大など様々な悪影響が考えられる。

今里ゼミがフィールドとする京丹後市宇川地区でも同様の課題を抱えている。私たちがコーホート変化率法を用いて2010年から今後数十年の宇川の人口の変化を算出したところ、人口はこれからもさらに減少していくことが明らかになった。

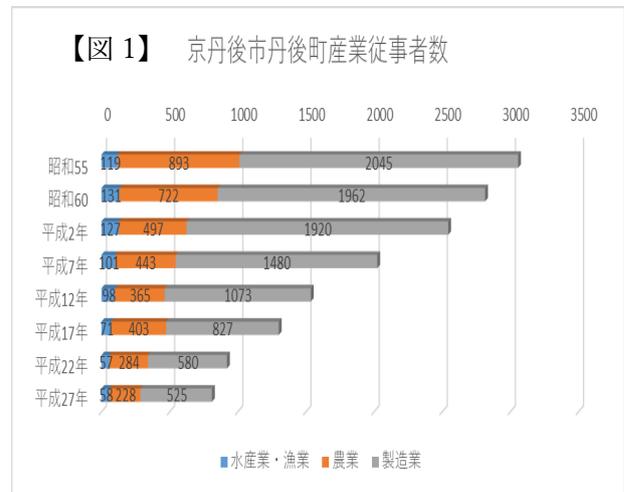
年度	人口総数(人)
2010	1520
2030	833
2050	356
2080	84

【表1】宇川の人口推移

(出所:国勢調査を元にコーホート変化率を用い算出)

さらに、京丹後市丹後町の昭和55年から平成27年の35年間の産業従事者数の変化を分析したところ、主要産業である農業、漁業、製造業の従事者数がどれも半数以下に減っていることがわかった。主要産業の従事者が減っていることから、丹後町の雇用がなくなり地域経済が衰退していることが明確にわかる。昭和55年時点では丹後ちりめんなどの製造業により丹後町では

経済基盤が安定していたが、安い綿・米などの海外輸入品の流入と漁業の漁獲高減少などにより地域内での生産活動が衰退することとなった。



(出所:国勢調査(1980~2015年)より作成)

これらのことから、人口と経済が課題となっている宇川の存続には地域外からお金を入れ外商を得ること、地域内で経済を循環させていく必要がある。そのために私たちは観光産業に着目した。本研究では、宇川の観光の課題を明らかにしたうえで、宇川の存続に必要な観光政策について述べる。

2. なぜ観光なのか

観光産業は周辺産業や農業等を巻き込んだ裾野の広い総合的な産業であり、疲弊した地域への経済効果が見込まれる。

宇川地区を観光という点で見た場合、都市部にはない田舎ならではの景観、食事などの魅力を売っていくことで外商の一部として経済力を向上することができると考えられる。集落が周

圃の自然環境に調和しているならば、訪問者はその風景に感動し、観光客は増大する。そうして、都市と農山村との交流が生まれ、農山村での消費も拡大する。また、景観を維持し、獣害被害対策行うという点では、農業生産活動の担い手を支え、生産活動の向上につながると考える。

3. 宇川地区の観光における現状と課題

(1) 現状

宇川の観光の現状は京丹後市で3番目に来場者が多い丹後松島海水浴場やよし野の里といった温泉施設、「京都百景」や「棚田百景」に選ばれている観光資源に恵まれている。しかし、いずれも入場料や売店を置くような観光資源ではなく、観光客にお金を落としてもらえていない状況である。

加えて、平成25年に京都第二外環状道路、平成27年には丹波綾部道路が開通したことによって、京都府北部に位置する宮津市と南部の京都市をつなぐ京都縦貫自動車道が全線開通した。これにより京都府の南北間の移動時間が大幅に短縮し、これまでより行動範囲が広がったため、宇川や周辺地域へのアクセス性が高まった。

(2) 課題

(i) 外貨を得られていない

京丹後市やその周辺の地域での観光客数は年々増加傾向にあり、特に天橋立や伊根の舟屋などの観光地には多くの観光客が訪れている。しかし、宇川の観光客数は他地域と比較して少ないために、観光産業として成り立たない状況に陥っている。その要因としては、宿泊施設や土産屋などの商業施設がほとんどないことが挙げられる。

(ii) 観光地のつながりが弱い

もう一つ宇川地区の観光業の課題として、集客能力があるにも関わらず、観光地間のつながりが弱いためにそれらを活かせずにいることがある。宇川自体の魅力的な観光地に加え、天橋立

をはじめとする周辺の有名観光地による集客の恩恵があるものの、宇川の観光地はそれぞれがただ点在しているだけで、訪れた人たちにとって観光しやすい環境とは呼べない状況にある。

4. 政策提案

以上のことから、宇川の観光政策には、効率的に観光事業による利益を上げるための「外貨を獲得するための政策」を行い、そして宇川の事業・産業の発展のため、地域にお金と人を留め地域内での経済循環を図るための、「宇川地区の観光地や商業施設のつながりを強めるための政策」が必要ということが分かった。それらの政策のためのポイントは以下に整理できる。

外貨を稼ぐための政策	地域内資源（人的資源含む）の有効活用
	周辺観光地へのアプローチ
	地域にお金が落ちるシステム
宇川地区の観光地や商業施設のつながりを強めるための政策	宇川が一体となるシステム
	宇川地区住民同士のさらなる連携

これらのポイントを踏まえた政策を行うことで、周辺観光地の集客の恩恵を生かしつつ観光の利益を地域に還元させ、地域のつながりを強化することができると考えられる。

5. 参考文献

- ・溝尾良隆『観光学全集 第1巻観光学の基礎』株式会社原書房(2009)
- ・枝廣淳子『地元経済を創りなおす』岩波新書(2018)
- ・「海の京都」京丹後市観光まちづくり
- ・京丹後市『第3次京丹後市観光振興計画』
https://www.city.kyotango.lg.jp/material/files/group/31/h30_kankokeikaku_vol3.pdf
- ・総務省統計局 国勢調査
<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/index.html>